

2020年度 事業実施報告

事業名	産官学民の連携による伝統的河川工法を用いた河川管理の研究活動 中聖牛および竹蛇籠の組立設置
日時	令和2年12月6日（日）8時30分から16時00分
場所	木津川 15.2k付近〔玉水橋より約1km下流〕
参加者数	50名〔淀川河川事務所5名、京大防災研4名、リバーフロント研究所1名、摂南大学6名 やましろ里山の会32名、BYネット2名〕
概要	淀川水系木津川の下流では、土砂供給の減少による河床低下や陸域部の冠水頻度が減少し樹林化することによる河道の二極化が問題となっていることから河川環境の改善および保全に向けた様々な対策が検討されている。その一つの取り組みとして、2017年から伝統的河川工法を用いた研究プロジェクトを淀川河川事務所、京都大学防災研究所、流域住民が共同で実施している。これまでの取り組みで河道内に6基の中聖牛を設置した。それらの効果、検証結果を踏まえて今回は、さらに中聖牛3基の増設と常時流水する箇所へ設置していた竹蛇籠のメンテナンスを実施した。
実施結果	このプロジェクトを軸として流域住民の木津川への関心度が向上し、官民一体となった河川管理を実践するモデルに繋がっていると感じた。特に住民主導による生態系や環境の保全・改善、治水対策の必要性・重要性を参加した住民が話していたのが大きな成果と考えている。
資料	
ふりかえり	このプロジェクトの牽引役を果たしているNPO法人やましろ里山の会等の地域住民の高齢化が課題と考えていた。今回、複数の子育て世代の参加があり、持続的な活動に繋がればと期待している。